

各 位

上場会社名	株式会社ゼンリン
代表者名	代表取締役社長 高山 善司
(コード番号	9474)
問合せ先責任者	執行役員コーポレート本部長 松尾 正実
(TEL	093-882-9050)

新中長期経営計画（2015 年度～2019 年度）の策定について

株式会社ゼンリン（本社：福岡県北九州市、社長：高山善司、以下「ゼンリン」）は、2012-2015 年度中期経営計画「ZENRIN GROWTH PLAN 2015」を改編し、2015 年度からスタートする新中長期経営計画「ZENRIN GROWTH PLAN 2020（以下、ZGP2020）」（2016 年 3 月期～2020 年 3 月期）を策定しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 前中期経営計画「ZENRIN GROWTH PLAN 2015」の経過

中期経営計画「ZENRIN GROWTH PLAN 2015」では、キュレーション思考で「より適した価値」を実現するために 3 つの基本構成を掲げ、①「用途開発による収益拡大」②「時空間データベース（以下、DB）の構築」③「生産性改善と構造改革」に取り組んでまいりました。

2014 年度までに時空間 DB の先行投資を実施してまいりましたが、用途開発による新商品のリリースが限定的となったこと、スマートフォンサービスやカーナビゲーション市場の環境変化などにより進捗に遅れが生じたことなどから、新たな中長期経営計画を策定いたしました。

2. 新中長期経営計画「ZENRIN GROWTH PLAN 2020」の基本方針

ゼンリングループは経営ビジョンである「情報を地図化する世界一の企業」を実現するために、ZGP2020 では位置情報サービスの拡充、防災・減災に対する意識の高まり、安全運転支援など、多様化する地図情報の用途に対し、情報の差別化とコストリーダーシップを実現することで「日本の地図をすべてゼンリン基盤とする」ことを目指します。

(1) ZGP2020 のテーマ

「日本の地図をすべてゼンリン基盤へ」

(2) 基本構成

ZGP2020 ではニーズに対応したサービスの提供にとどまらず、地図情報の新たな利用価値創造を目指し、「モノ」から「コト」への転換を軸として、3 つの基本構成を掲げて取り組んでまいります。

- I. 「利用シーン」を創造した用途開発による収益拡大
- II. 「QCDDS」(※1) を追求した時空間情報システムの安定運用
- III. 「生産性改革」の実現による固定費率の低減

(※1) QCDDS: Quality (品質)、Cost (価格)、Delivery (納期)、Diversity (多様性)、Scalability (拡張性)

(3) 目標とする経営指標並びに連結業績

	2015年度予想 (2016年3月期)	2017年度目標 (2018年3月期)	2019年度目標 (2020年3月期)
売上高	555億円	600億円	700億円
営業利益	25億円	50億円	100億円
営業利益率	4.5%	8.3%	14.2%
ROE	4%	8%	12%以上
DOE (※2)	3%以上	3%以上	3%以上

(※2) DOE：連結株主資本配当率＝配当総額÷株主資本

株主資本は資本金、資本剰余金、利益剰余金の合計から自己株式の額を控除したもの

(4) 資本政策に関する基本方針

ゼンリングroupは持続的な企業価値向上を目指し、資本効率及び財務健全性のバランスを考慮しつつも、収益基盤である地図DB整備やビジネス開発に注力することで、営業利益率を高めることを優先課題として、自己資本当期純利益率（ROE）の改善に取り組んでまいります。

2017年度（2018年3月期）までは地図DBの先行整備やビジネス開発が続くことからROE8%を目標とし、2019年度（2020年3月期）においてはROE12%以上を目指してまいります。

また、利益配分につきましては、株主の皆様に対する利益還元を最重要課題と位置付け、連結ベースでの中長期経営計画における利益成長に基づいた、安定的かつ継続的な配当の実施を基本方針とし、配当金は現状レベルを維持しつつ、連結株主資本配当率（DOE）3%以上を目標といたします。

機動的な資本政策や資本効率の向上を目的とした自己株式の取得等も引き続き検討し、適正な内部留保を考慮しつつ連結ベースの利益水準に応じた利益還元を行ってまいります。

なお、内部留保につきましては、市場の急速な動きに対応するために、今後の事業展開に不可欠な設備投資や研究開発投資等に充当してまいります。

ゼンリングroupは、「知・時空間情報の創造により人びとの生活に貢献します」を企業理念として掲げ、「Maps to the Future」のスローガンのもと、地図情報で未来を創造していくことを使命として企業運営を行っております。そして、情報化社会の発展により地図情報に求められる価値やニーズが大きく変化を続ける今、私たちは「情報を地図化する世界の企業」となることを目指してまいります。

詳細につきましては、添付の資料をご参照ください。

【本資料に関する注記事項】

本資料の将来に係わる一切の記述内容は、現時点で入手可能な情報に基づく当社の判断によるものですが、現状または将来のリスクや不確実な要素が含まれております。さまざまな要因変化により、実際の結果は、これら記述内容と大きく異なる可能性がございます。その原因となる潜在的リスクや不確実な要因には、経済情勢の変化、法的規制の変化、新商品開発の遅延、自然災害等がございますが、これらに限定されるものではありません。

以上

中長期経営計画(2015-19年度) ZENRIN GROWTH PLAN 2020 ～日本の地図をすべてゼンリン基盤へ～

2015年5月8日

株式会社 ゼンリン

Maps to the Future

目次

ZENRIN
Maps to the Future

- I. 「ZENRIN GROWTH PLAN 2015」(ZGP2015)の振り返り
- II. 「ZENRIN GROWTH PLAN 2020」(ZGP2020)
- III. 2016年3月期業績予想

本資料の将来に係わる一切の記述内容は、現時点で入手可能な情報に基づく当社の判断によるものですが、現状または将来のリスクや不確実な要素が含まれております。さまざまな要因変化により、実際の結果は、これら記述内容と大きく異なる可能性がございます。その原因となる潜在的リスクや不確実な要因には、経済情勢の変化、法的規制の変化、新商品開発の遅延、自然災害等がございますが、これらに限定されるものではありません。

尚、本資料掲載情報は、表示単位未満の端数切捨て、増減率の小数点以下第2位四捨五入し小数点第1位まで記載しております。また、増減率が1000%を超える場合、及び一方若しくは両方がマイナスとなる場合は「－」表記しております。

I. ZGP2015の振り返り

ZGP2015 基本構成

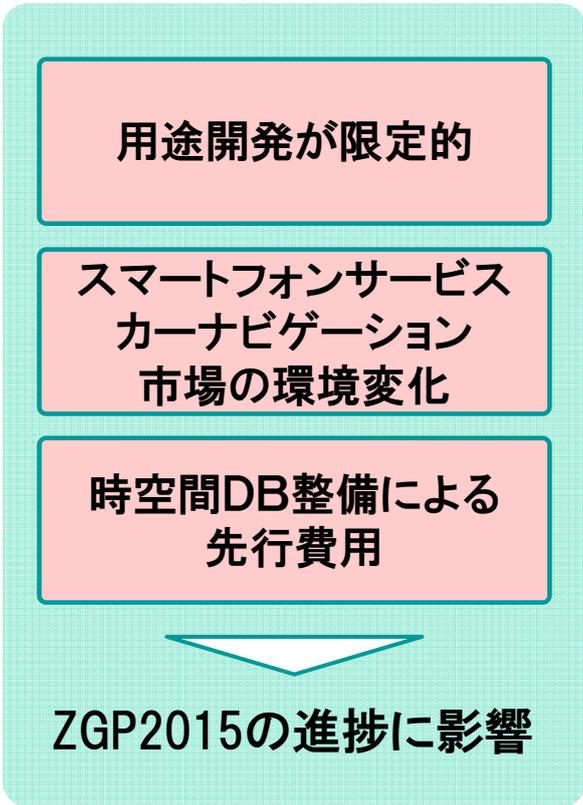
ZENRIN GROWTH PLAN 2015

キュレーション思考で「より適した価値」を実現する

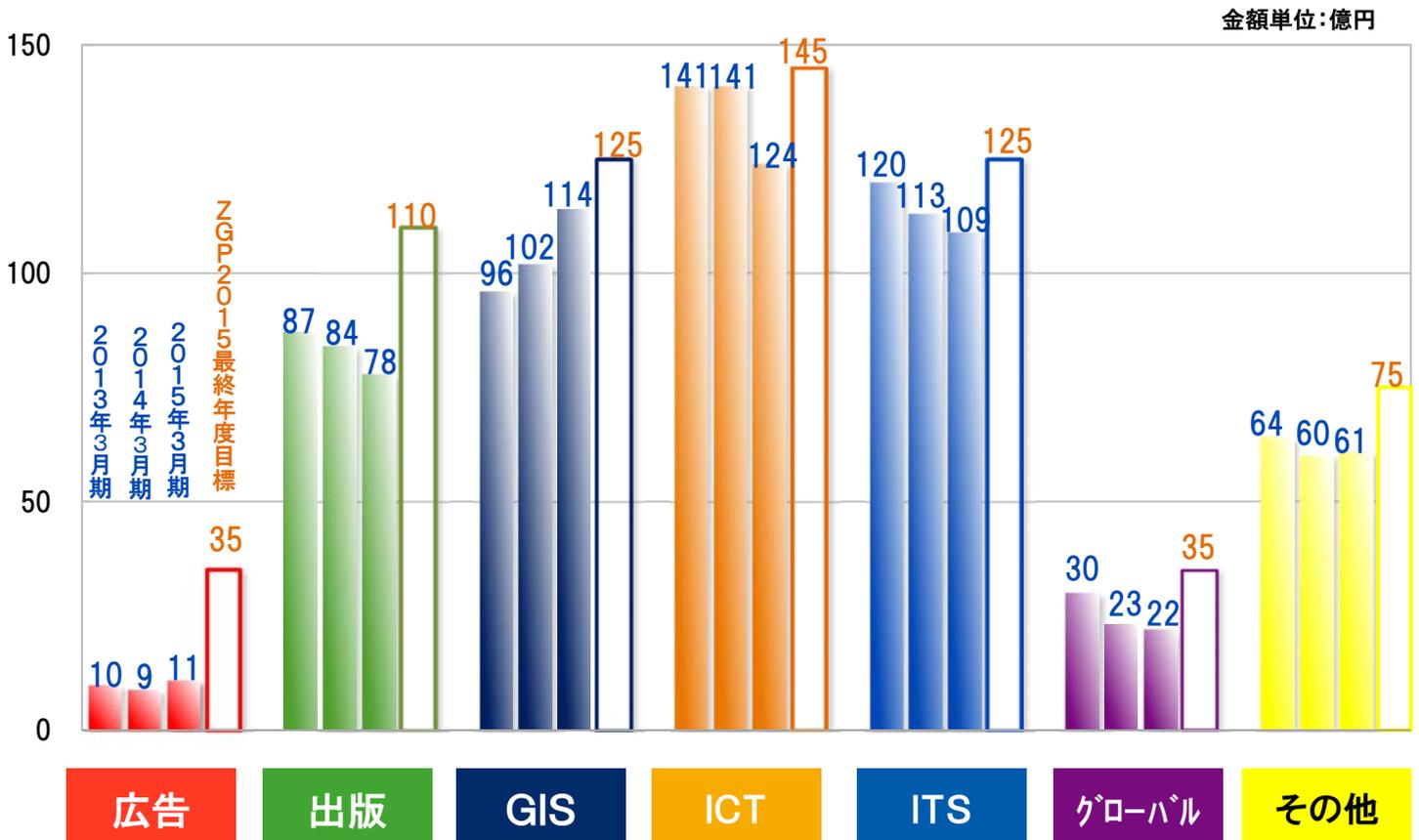
I. 既存・新規地図DBの用途開発による収益拡大

II. 「知のサイクル」適正化のための時空間DBの構築

III. 固定費率低減のための生産性改善と構造改革



ZGP2015で区分した事業別売上高推移



II. ZGP2020

ZGP2020 テーマ



経営ビジョン
情報を地図化する世界一の企業

2020年

「現場を生かす経営」
～日本の地図をすべてゼンリン基盤へ～

©ZENRIN

- ・ IT技術の進化による社会構造の変化
- ・ 高まる防災意識と災害対策
- ・ 2020年東京五輪の開催決定
- ・ 安全・安心・快適な車社会
- ・ 増加する訪日外国人旅行者

地図情報の利用機会が拡大

- ・ 中小企業のGISシステム利用環境の向上
- ・ 安全運転支援などITSの高度化
- ・ 国・自治体の防災、減災に対する地図ニーズの高まり
- ・ 訪日外国人による位置情報サービスの利用ニーズ拡大
- ・ 地方創生、地域振興における地域情報ニーズの高まり

差別化

コストリーダーシップ

©ZENRIN

© ZENRIN CO., LTD. All Rights Reserved.

8

ZENRIN GROWTH PLAN 2020

「モノ」から「コト」への転換

I. 「利用シーン」を創造した用途開発による収益拡大

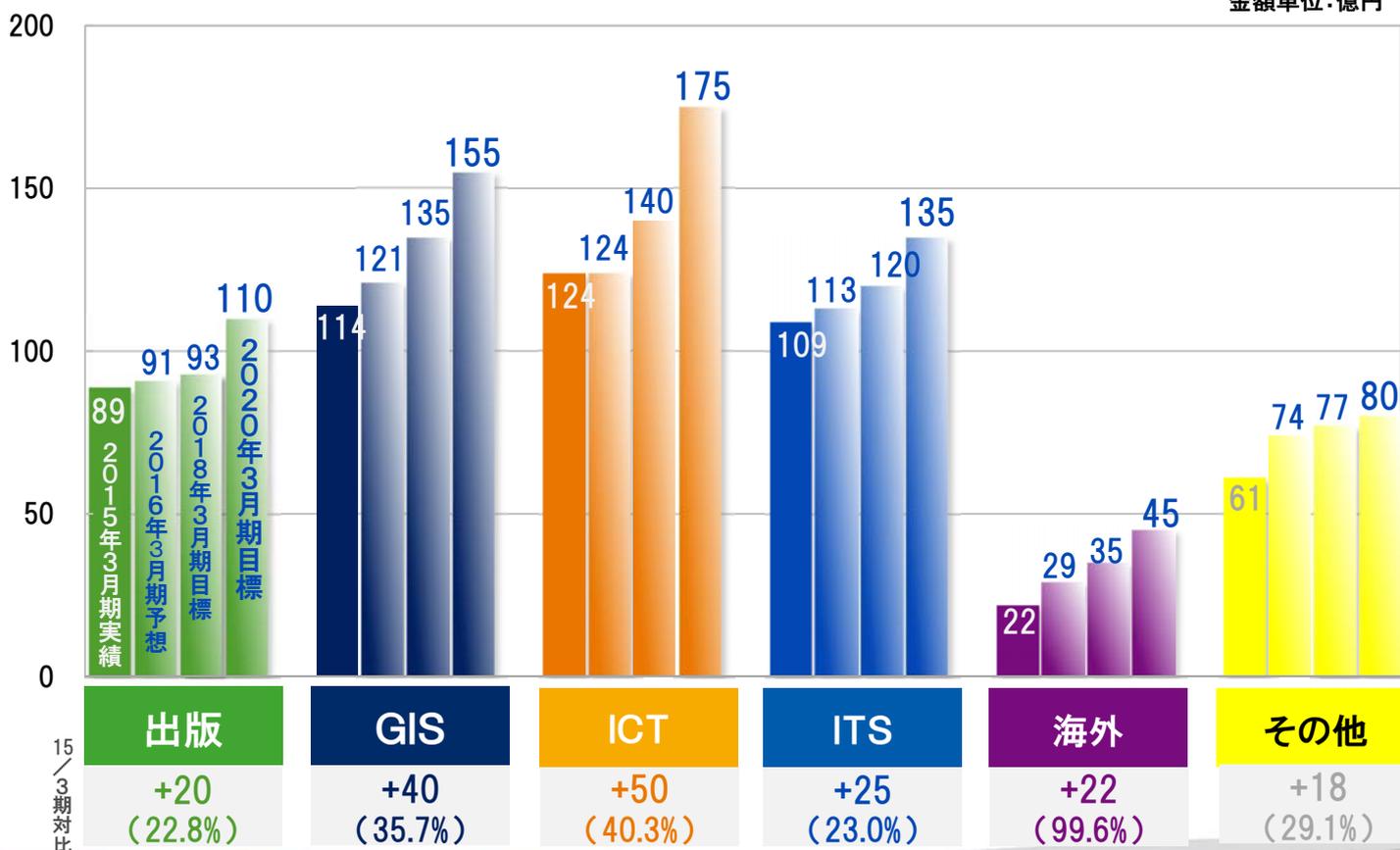
II. 「QCDDS」を追求した時空間情報システムの安定運用

III. 「生産性改革」の実現による固定費率の低減

© ZENRIN CO., LTD. All Rights Reserved.

9

金額単位：億円



© ZENRIN CO., LTD. All Rights Reserved.

ZGP2020 基本方針

事業	出版	プリントメディアの「コト」を追求
	GIS	コンセプト商品の拡充
	ICT	ITメディアの「コト」を追求
	ITS	「つながるナビ」と「高精度地図」
	海外	新興国エリアのビジネス基盤構築
	その他	地図データベース事業とのシナジーを追求
生産	新たな基盤データベースの構築によるQCDDDSの実現	

© ZENRIN CO., LTD. All Rights Reserved.

プリントメディアの「コト」を追求

単発的購入モデルから継続的利用モデルへ変革

手軽に利用できるオンデマンドサービスの拡充

受託型商品から進化した企画型商品の拡充

地図を新たなコンセプトで捉えて市場創造

コンセプト商品の拡充

用途開発された商品と新価格の投入でゼンリンGISブランドを構築

地図に主題を付与したコンセプトが明確なパッケージ商品の投入

GIS利用の裾野拡大に向けたエントリーモデルの投入

自治体プラットフォームの確立

情報還流型ビジネスモデルの確立

ITメディアの「コト」を追求

時空間コンテンツ提供による地図DB利用価値の向上

Webビジネスにおける広告シェアモデルの立ち上げ

時空間地図DBの提供によるデジタルサイネージ市場の獲得

成長が見込まれる「観光分野」における位置情報ビジネスの拡大

3Dデータの活用領域拡大による3Dソリューションの立ち上げ

「つながるナビ」と「高精度地図」

時空間コンテンツ提供による地図DB利用価値の向上

地図DBとアプリケーションを組合わせたトータルサービスの提案

3D地図ライセンスとオーサリング案件で海外メーカー獲得

高精度地図の技術確立と商品企画推進

新興国エリアのビジネス基盤構築

インドビジネスの拡大

ASEANビジネスの立ち上げ

ナビアプリのグローバル展開とオーサリング案件の確保

海外高精度ビジネスの立ち上げに向けた事業可能性の検証開始

海外GISの立ち上げ

地図データベース事業とのシナジーを追求

一般印刷ビジネスの安定

インシッパ広告ビジネスの拡大

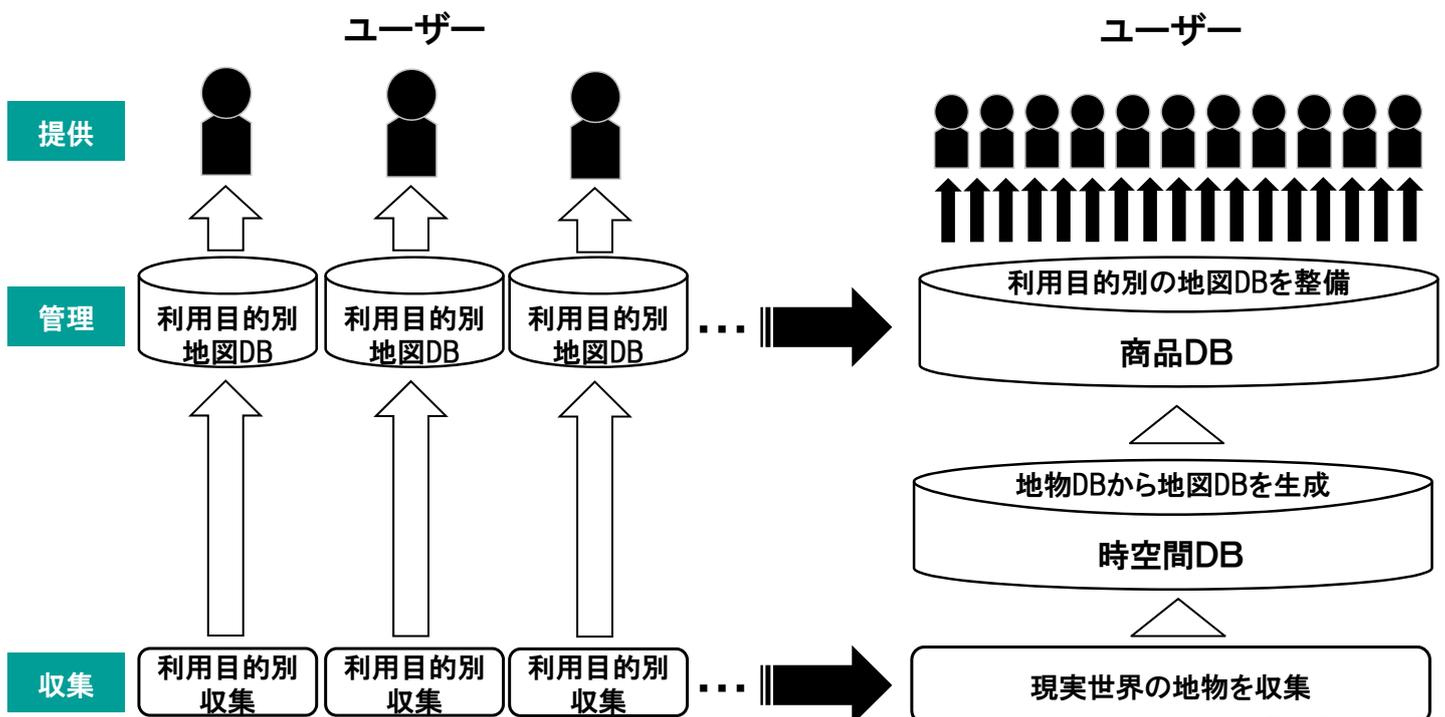
位置情報ビジネスとのシナジーによる売上拡大

新たな基盤データベースの構築によるQCDDSの実現



- Q** : Quality (品質)
- C** : Cost (価格)
- D** : Delivery (納期)
- D** : Diversity (多様性)
- S** : Scalability (拡張性)

新たな基盤データベースの構築によるQCDDSの実現



	2015年3月期 実績	2016年3月期 予想	2018年3月期 目標	2020年3月期 目標
連結売上高	522億円	555億円	600億円	700億円
連結営業利益 (利益率)	23億円 (4.6%)	25億円 (4.5%)	50億円 (8.3%)	100億円 (14.2%)
ROE (自己資本当期純利益率)	3.9%	4%	8%	12%以上
DOE (連結株主資本配当率)	3.0%	3%以上	3%以上	3%以上

Ⅲ. 2016年3月期業績予想

2016年3月期 通期業績予想について

ZGP2020初年度<増収増益>

既存事業による収益確保と時空間DB整備推進

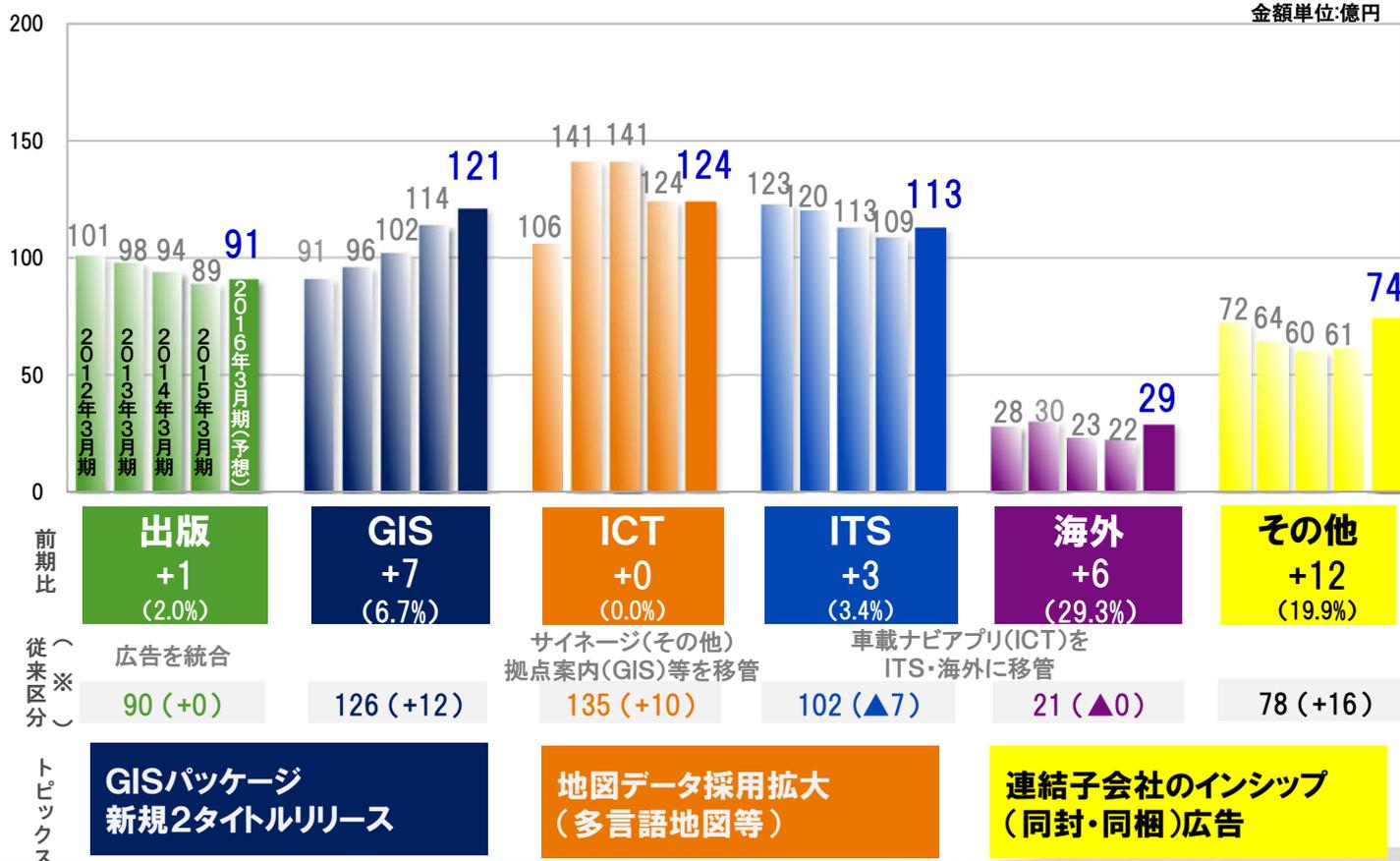
「GIS事業」による収益確保、2015年3月期下半期より加わった連結子会社の「その他事業」により増収生産性向上により既存地図DB整備コストを低減しつつ、時空間DB整備を推進

金額単位:百万円

	2015年3月期 実績	2016年3月期 業績予想	前期比	増減率(%)
売上高	52,286	55,500	3,213	6.1
営業費用	49,897	53,000	3,102	6.2
営業利益	2,389	2,500	110	4.6
営業利益率	4.6%	4.5%	△0.1pt	—
経常利益	2,751	2,800	48	1.8
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,464	1,500	35	2.4

ZGP2020で区分した事業別売上高

金額単位:億円



(※)従来区分:2015年3月期までの事業区分で集計した売上高(前期比)

ZENRIN

Maps to the Future